

／ 知れば知るほどおもしろい! ／

古典芸能を‘偏愛’する二人のトーク&レクチャー

おしゃべり古典サロン vol.17

菅原伝授手習鑑

すがわらでんじゅてならいかがみ

今回は「別れ」をテーマに徹底解説!

2017年の始動から9年目を迎えた「おしゃべり古典サロン」。

3年を費やした『仮名手本忠臣蔵』を終え、今年からは『菅原伝授手習鑑』を扱います。

「忠臣蔵」同様、三大名作のひとつである今作は、平安時代、左大臣・藤原時平の讒言により太宰府へ左遷となった右大臣・菅原道真の史実を踏まえながら、三つ子の活躍や道真の天神縁起の世界を描いています。

『菅原伝授手習鑑』シリーズでは、各段で描かれた「別れ」に着目をして、徹底的に深掘りいたします!

講師は、おなじみ木ノ下裕一さんと田中綾乃さん。

古典の名作の要を、お二人の古典愛溢れるトークで分かりやすく紐解きます。

初心者の方も大歓迎。贅沢な古典沼の時間をお楽しみください。

初段～二段目 あらすじ

右大臣の菅丞相の養女・菟屋姫は、帝の弟である斎世親王と恋仲になり、逢引しているところを左大臣の藤原時平の家臣に見つかり、二人はどこかへ落ち延びる。一方、館では菅丞相が勘当した弟子・武部源蔵に菅家の筆法を伝授したが、その後、菟屋姫の一件で謀反の疑いをかけられた菅丞相は失脚し、九州の太宰府へ流罪が決まる。源蔵夫婦は、菅丞相の子息・菅秀才を預かって立ち去る。

菅丞相は、都から太宰府へ左遷させられる途中、河内にある伯母の覚寿の館へ立ち寄る。危うく藤原時平側に通じている者たちに暗殺されそうになる菅丞相だが、自らの姿を彫った木像が身替りになるという奇跡を起こす。やがて、出立することになった菅丞相を伯母が見送るなか、忍んでいた菟屋姫も現れて、父と娘は涙ながらに最後の別れをするのだった。

講師



撮影:平林岳志

木ノ下裕一

木ノ下歌舞伎 主宰



撮影:渡邊肇

田中綾乃

玉川大学文学部 准教授

2026年 **10月17日(土)**

13:30～16:00 (途中休憩あり) ※12:45受付開始/13:00開場

三重県文化会館 小ホール 全席自由 1,000円

主催:三重県文化会館[指定管理者:公益財団法人三重県文化振興事業団] 共催:三重県生涯学習センター

MIE CENTER FOR THE ARTS
三重県総合文化センター